

四帖目第九通 疫癘の御文

当時このごろ、ことのほかに疫癘えきれいとてひと死去しきよす。これさらに疫癘えきれいによりてはじめ死するにはあらず。生まれはじめしよりしてさだまれる定業じょうごうなり。さのみ、かくおどろくまじきことなり。しかれども、いまの時分じぶんにあたりて死去するときは、ヤもありぬべきようにみなひとおもえり。

これまことに道理ぞかし。このゆえに、阿弥陀如来のおおせられけるようは、「末代まつだいの凡夫ぼんぶ、罪業のわれらたらんもの、つみはいかほどふかくとも、われを一心いっしんにたのまん衆生しゆじやうをば、かならずすくうべし」とおおせられたり。かかる時はときはいよいよ阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、極楽に往生すべしとおもいとりて、一向一心に弥陀をとうときことと、うたがうこころつゆちりほど

私記

近頃、たいそう多くの人が伝染病でんせんびやうにかかつて亡なくなつております。しかし、これは決して、伝染病によつて初めて死ぬのではありません。生まれたまつてい

る業ごうの報むくいなのです。それほど深く驚くべきことではありません。そうではあります、

今の時分じぶんにあつて死去しますと、きつと伝染病によつて死んだに違ちがひないというように人は思うもので、これももつともなことであります。よう。それであるから、阿弥陀如来は、「末代まつだいの凡夫ぼんぶ、罪業の私たち、罪がどれほど深くとも、我を一心いっしんにたのむ衆生しゆじやうを、かならずすくうぞ」と仰おほせられたのです。このような時は、いよいよ阿弥陀仏を深くたのんで、極楽にうまれかわることができると思つて、一向一心いっしんに弥陀を尊とうとび、疑うこころをわずか